

授業科目	物理療法学				
担当者	田中 稔 (実務経験者)、柳 千磨 (実務経験者)				(オムニバス)
実務経験者の概要	田中 稔, 柳 千磨 (理学療法士として, 臨床現場において物理療法機器を用いた治療に従事していた.)				
学科名	理学療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

まずは, 物理療法機器によってもたらされる身体への生理学的作用を理解する. その上で, それに伴うリスク・適応・禁忌などを考える. 実際の機器の操作は, 物理療法学実習で体験する. 田中 稔 (実務経験者)

■ 到達目標

1. 理学療法における物理療法の位置づけと意義を理解する.
2. 各物理療法の生理学的作用を理解する.
3. 各物理療法のリスクを想起できるようになる.
4. 生理学的作用, リスクを勘案して, 適切な物理療法機器の選択ができるようになる.
5. 各物理療法機器の設定値の意味を理解する.

■ 授業計画

- 第1回 物理療法の意義・位置づけ 田中 稔 (実務経験者)
- 第2回 生理学的作用 田中 稔 (実務経験者)
- 第3回 炎症・痛みに対する理学療法 田中 稔 (実務経験者)
- 第4回 温熱療法 田中 稔 (実務経験者)
- 第5回 寒冷療法 田中 稔 (実務経験者)
- 第6回 光線療法 田中 稔 (実務経験者)
- 第7回 光線療法・電磁波療法 田中 稔 (実務経験者)
- 第8回 超音波療法 田中 稔 (実務経験者)
- 第9回 電気刺激療法① 田中 稔 (実務経験者)
- 第10回 電気刺激療法② 田中 稔 (実務経験者)
- 第11回 その他の電気療法 田中 稔 (実務経験者)
- 第12回 牽引療法 田中 稔 (実務経験者)
- 第13回 マッサージ 田中 稔 (実務経験者)
- 第14回 水治療法 田中 稔 (実務経験者)
- 第15回 リスク管理その他 田中 稔 (実務経験者)

■ 評価方法

科目試験 (筆記試験) : 80%, 小テスト : 20%

■ 授業時間外の学習 (予習・復習等) について

授業開始時に知識の確認テストを実施する. そのため, 事前に前回授業の復習をしておくこと.

■ 教科書

■ 参考図書

書 名 : 物理療法学 第4版 (標準理学療法学 専門分野)
 著者名 : 奈良 勲
 出版社 : 医学書院

■ 留意事項

小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 講義受講にあたって

実際の物理療法機器を使用する物理療法学実習につながる講義である。まずは生理学的作用とリスク管理に焦点を当て実際に機器使用するにあたり必要な知識を身に付ける。